

# 令和3年度 行政評価調書

## ■ 施策の概要

(第7次総合計画 基本計画 P.116～118)

まちづくり 6つのテーマ	テーマ4 生活基盤が充実した安全で暮らしやすいまち(生活基盤)		
施策名	4-1 上下水道		
所管部	水道局	関係部	建設部
この施策の 目指すべき姿と その展開方向	<p>(第7次総合計画 基本構想 P.41)</p> <p>安全な水の供給を図るとともに、快適で安全・安心な生活環境を創造し、将来にわたって市民に信頼され続ける上下水道を目指します。</p> <p>このため、経営基盤の強化及び上下水道機能の維持・強化を図るとともに、市民の視点に立った事業経営に努めます。</p> <p>また、歴史的資産の有効活用や再生可能な資源の利活用の検討を行うほか、広域的な連携の推進に努め、危機管理対策の充実を図ります。</p>		
市民アンケート 指標	上下水道に満足している市民の割合	基準値	目標値
		61.4%	基準値より増

## ■ 施策の内容(小施策)

(第7次総合計画 基本計画 P.116～118)

小施策 及び 指標	(1) 安全な水の供給と快適で安全・安心な生活環境の創造		基準値	目標値
	指標	水質分析機器の整備更新数	-	25基
		事業場排水の水質検査実施箇所数	-	400か所
	(2) 上下水道機能の維持・強化		基準値	目標値
	指標	導水・送水・配水管の更新延長	-	34.3km
		下水道設備の整備更新数	-	184基
	(3) 経営基盤の強化と市民の視点に立った事業経営		基準値	目標値
	指標	水道料金、下水道使用料の収納率	水道99.3%	99.3%
			下水道99.3%	99.3%
	(4) 危機管理対策の充実と広域連携の推進		基準値	目標値
	指標	災害対策訓練実施回数	4回	5回

# 令和3年度 行政評価調書

## ■施策の評価(一次評価)

まちづくり 6つのテーマ	テーマ4 生活基盤が充実した安全で暮らしやすいまち(生活基盤)					
施策名	4-1 上下水道					
所管部	水道局	関係部	建設部			
市民アンケート 指標	上下水道に満足している市民の割合		基準値	令和3年度	令和5年度	目標値
			61.4%	63.7%		基準値より増
市民アンケート 指標の推移	◎	◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない -:判定不能(実績値なし)				
各小施策の 指標の推移	指標		基準値	実績値	推移	目標値
	(1)	水質分析機器の整備更新数	-	6基	◎	25基
		事業場排水の水質検査実施箇所数	-	82か所	◎	400か所
	(2)	導水・送水・配水管の更新延長	-	6.6km	△	34.3km
		下水道設備の整備更新数	-	21基	△	184基
	(3)	水道料金、下水道使用料の収納率	水道99.3%	99.1%	△	99.3%
下水道99.3%			99.5%	99.3%		
(4)	災害対策訓練実施回数	4回	8回	◎	5回	
<p>指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値&lt;標準値⇒△)</p>						
【一次評価】 達成度の向上 等へ向けた今後 の方向性	B-1	(指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない	(改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う			
上記特記事項	<p>・小施策(2)の指標は令和2年度までの目標値に至っていないが、施策に対する市民アンケート指標をはじめ、その他の指標の推移は概ね順調であり、特に小施策(1)の指標については計画より前倒して進んでいる。</p> <p>・小施策(3)については、新型コロナウイルス感染拡大の影響による水道料金・下水道使用料の支払猶予の影響が懸念されるが、今のところ収納率が大きく下がっているわけではないため、今後の推移を注視したい。</p> <p>・主な取組・予算事業をこのまま継続しつつ、必要に応じて改善しながら、人口減少やコロナ禍に伴う収益の減少が続く中、持続可能で効率的な上下水道事業経営に努め、安全で良質な水の安定供給と、下水処理による快適な生活環境の維持によりライフラインとしての使命を果たしてまいりたい。</p>					

【二次評価】 達成度の向上 等へ向けた今後 の方向性	B-1	(指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない	(改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う		
上記特記事項	<p>○各指標の推移等は、一次評価のとおりと考える。</p> <p>○小施策(2)の「導水・送水・配水管の整備延長」や「下水道設備の整備更新数」については、実績値が計画を下回っていることから、目的達成に向けて事業の推進方法を工夫すること。</p> <p>○水道料金・下水道使用料の支払猶予については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により影響を受けた市民に配慮した政策であることから、今後の感染状況を注視しながら可能な範囲で実施すること。</p>				

# 令和3年度 行政評価調書(小施策検討シート)

## (1)安全な水の供給と快適で安全・安心な生活環境の創造

(第7次総合計画 基本計画 P.117)

指標名	指標の基準年		基準値		目標値		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
指標1	水質分析機器の整備更新数		-	-	25基 (R1~R10合計)		
	年度ごとの実績値	単年度	4基	2基			
		累計	4基	6基			
指標1推移	◎	◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない -:判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)				
指標2	事業場排水の水質検査実施箇所数		-	-	400か所 (R1~R10合計)		
	年度ごとの実績値	単年度	42か所	40か所			
		累計	42か所	82か所			
指標2推移	◎	◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない -:判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)				
主な取組	<p>★信頼性の高い水質検査体制の維持と水質管理の強化(水道局水質管理課、水道局浄水センター)</p> <p>○給水装置や小規模貯水槽の適正管理についての周知及び指導・助言(水道局サービス課)</p> <p>○河川や海など公共用水域の水質保全に向けた下水道の接続促進(水道局サービス課)【共5-2循環型社会】</p> <p>○事業場に対する排水の水質検査や立入指導の強化による適正な放流水質の維持(水道局水処理センター)</p>						
主な 予算事業等	① 名称(事業番号)		② 前年度決算(見込)額		③ 担当		
	④ 目的と概要						
	⑤ 事業等実施状況						
	1	① 水質分析機器整備更新事業		② 6,149 千円		③ 水道局水質管理課	
		④ 新たな水質基準の見直しや規制強化に迅速に対応するため、水質分析機器を計画的に整備更新する。					
		⑤ 水質分析機器として、ガスクロマトグラフ質量分析計をはじめ、計2基を整備更新した。					
	2	① 給水装置・小規模貯水槽の適正管理		② 予算なし 千円		③ 水道局サービス課	
		④ 小規模貯水槽水道の適正管理について、リーフレットやホームページ、現地調査での周知等を行う。また、給水装置工事は届け出が必要なることを周知するとともに、無届工事の場合は施工業者に対し指導を行う。					
		⑤ 小規模貯水槽水道の所有者を確認し、適正管理等を周知した。また、給水装置工事の無届工事に対し、施工業者に指導を行った。					
	3	① 下水道の接続促進		② 予算なし 千円		③ 水道局サービス課	
④ 現在の高い水洗化率の水準を維持し、少しでも向上するよう水洗便所等改造資金貸付制度の利用を含めた下水道への接続促進の周知、啓発を継続して行う。							
⑤ 対象世帯へ下水道への接続促進を行った。							
4	① 適正な放流水質の維持		② 予算なし 千円		③ 水道局水処理センター		
	④ 処理場へ流入する水量や水質の変動に対して適切な対応を行うほか、事業場に対する排水の水質検査及び立入指導等を行い、排水基準を超える事業場の設置者に対しては、排水基準遵守の指導を行う。						
	⑤ 処理場への流入水量等は時間帯などにより変動するため、流入水量等に合わせた汚水ポンプの回転数調整や流入ゲートの開度調整を行っているほか、事業場の水質検査及び立入指導を適時行った。						
指標推移の要因等	<p>【指標1】「信頼性の高い水質検査体制の維持」を実現するための取組が、事業の進め方を工夫することで、計画より前倒しで進んだため。</p> <p>【指標2】目標値である400か所に対して、現状としては事業場排水の水質検査は順調に実施できている。これは、排水に係る基準値が事業場で認識されてきており、水質検査の実施においても協力的な事業場が増えていることが要因と思われる。</p>						
指標推移への対応	1	<p>1:各事業をこのまま継続して推進する</p> <p>2:予算事業等を改善しながら推進する</p> <p>3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う</p>					
対応の内容	<p>&lt;対応の内容を箇条書きで記入&gt;</p> <p>1~実現方策への取組として、大きな問題はないことから、今後も継続して、現状の取組項目を実施していく。</p> <p>2~小規模貯水槽の新規設置者は工事申請時に確認し、既存の設置者等については周知するときに使用者等から聞き取り調査を行う。</p> <p>3~水洗化率の向上について、今後も戸別チラシ配布やホームページ、広報誌にて促進を行う。</p> <p>4~処理場の流入水量等に応じた適切な対応を行い、事業場へは今後も排水基準を超える排水を排出させないように努める。</p>						

# 令和3年度 行政評価調書(小施策検討シート)

## (2)上下水道機能の維持・強化

(第7次総合計画 基本計画 P.117)

指標1	指標名		指標の基準年		基準値	目標値	
	導水・送水・配水管の更新延長		-		-	34.3km (R1～R10合計)	
指標1 推移	△	◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない -:判定不能(実績値なし)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
			単年度	3.4km	3.2km		
		累計	3.4km	6.6km			
◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない -:判定不能(実績値なし)			指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)				
指標2	指標名		指標の基準年		基準値	目標値	
	下水道設備の整備更新数		-		-	184基 (R1～R10合計)	
指標2 推移	△	◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない -:判定不能(実績値なし)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
			単年度	12基	9基		
		累計	12基	21基			
◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない -:判定不能(実績値なし)			指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)				
<b>主な取組</b> ○上下水道施設の適正な維持管理(水道局浄水センター、水道局水処理センター) ★老朽施設の延命化と効果的な改築・更新(水道局水道事業課、水道局下水道事業課) ★耐震化などによる災害に強い上下水道施設の構築(水道局水道事業課、水道局下水道事業課)【共4-7防災・危機管理】 ○将来需要などに対応した上下水道施設の効率化・最適化(水道局水道事業課、水道局下水道事業課)							
<b>主な予算事業等</b> ① 名称(事業番号)      ② 前年度決算(見込)額      ③ 担当 ④ 目的と概要 ⑤ 事業等実施状況							
1		① 水道施設改築更新事業		② 834,615 千円		③ 水道局水道事業課	
		④ 施設維持管理計画に基づき施設の延命化を図るとともに、更新計画に基づき効率的な改築・更新を行い、アセットマネジメントの運用によりコストの平準化を図る。併せて耐震化計画に基づき耐震化を進める。 ⑤ 導水・送水・配水管の更新延長 3.2km 水道設備の更新数 16基 耐震化計画の改訂(R3.3月末完了) 導水・送水・配水管の耐震化延長 0.34km					
2		① 下水道施設改築更新事業		② 1,374,361 千円		③ 水道局下水道事業課	
		④ 下水道施設維持管理計画やストックマネジメント計画について、必要に応じて見直しを行い、効率的に延命化または改築・更新を行って更新費用の平準化を図る。併せて耐震診断を進め耐震化計画を策定する。 ⑤ 下水道設備の更新数 9基 下水道管路の点検延長 4.1km 下水道施設の耐震診断 1箇所					
3		① 水道施設の適正な維持管理		② 348,342 千円		③ 水道局浄水センター	
		④ 施設管理情報を有効活用し、定期的な配水池清掃など施設の保守点検等を行い、施設の延命化を図ること で、予防保全型の維持管理を目指した体制の強化を図る。 ⑤ 配水池清掃 令和2年度 3箇所					
4		① 下水道施設の適正な維持管理		② 961,035 千円		③ 水道局水処理センター	
		④ 施設情報を下水道施設の維持管理に有効活用するほか、設備の保守点検、整備、修繕の計画を効率的に 実行する。また、維持管理に係るマニュアル等を整備し、効率的な下水道施設の管理運営に努める。 ⑤ 設備点検整備 82件 機器修繕 38件 機器点検整備業務マニュアル(仕様書)などの作成					
5		① 水道施設の効率化・最適化		② 予算なし 千円		③ 水道局水道事業課	
		④ 将来の水需要に応じた施設規模の適正化や効率的な更新を行う。危機管理を考慮した最適な運用に努め るとともに、個々の施設については今後の位置付けを明確にし、優先度に応じた整備を行う。 ⑤ 施設規模の適正化に向け、ダウンサイジングについての検討を進めた。また、各系統、施設ごとの特徴に応 じた水運用の検討についても、将来に向け情報収集や課題整理を進めた。					
6		① 下水道施設の効率化・最適化		② 予算なし 千円		③ 水道局下水道事業課	
		④ 下水道施設の効率化及び最適化を図るにあたり、新技術の導入に向けて検討する。更新の際には施設機能 の集約化、ダウンサイジングなどについて十分な検討を行い下水道施設の再構築に努める。 ⑤ 余剰汚泥削減を目的とした水処理技術についての情報収集及び検討、勝納汚水中継ポンプ場における改 築規模の適正化の検討を進めた。					

<b>指標推移の要因等</b>	<p>【指標1】維持管理計画及び更新計画と整合性を図りながら工事を進めており、令和2年度までの目標値(8.84km)には至っていないものの、令和10年度目標値を年平均した場合の令和2年度までの更新延長値(6.86km)とほぼ同水準(6.6km)である。</p> <p>【指標2】ストックマネジメント計画に基づき効率的に改築・更新を行っており、令和2年度までの目標値(22基)とほぼ同水準(21基)である。</p>	
<b>指標推移への対応</b>	<p>1</p>	<p>1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う</p>
<b>対応の内容</b>	<p>&lt;対応の内容を箇条書きで記入&gt;</p> <p>1,2～維持管理計画・更新計画に基づき、効率的な改築・更新を行い、耐震化の取組も進める。 3～配水池清掃について計画的に進め、排水できない池についてロボット清掃を検討する。 4～施設情報を下水道施設の維持管理に有効活用するほか、設備の保守点検、整備、修繕を今後も効率的に実行する。 5～水道施設の規模や立地、水位関係を整理し、施設の統廃合について引き続き検討していく。 6～新技術について今後も情報収集を進め、導入に向けての検討に努める。</p>	

# 令和3年度 行政評価調書(小施策検討シート)

## (3)経営基盤の強化と市民の視点に立った事業経営

(第7次総合計画 基本計画 P.117)

指標	指標名		指標の基準年		基準値		目標値	
	水道料金、下水道使用料の収納率		平成30年		①水道99.3%		99.3%	
					②下水道99.3%		99.3%	
指標推移	△	◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない -:判定不能(実績値なし)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
			①99.2%	99.1%				
			②99.3%	99.5%				
指標推移	△	◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない -:判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)					
主な取組	<p>★財務体質の強化に向けた高い収納率の維持と新たな経費節減への取組(水道局総務課、水道局業務課)</p> <p>○広報誌やイベントなどを通じた広報活動の充実(水道局総務課)</p> <p>○奥沢水源地など歴史的価値のある資産の有効活用(水道局水道事業課、水道局総務課、建設部公園緑地課)</p> <p>○小水力発電など再生可能エネルギーの利活用の推進(水道局水道事業課)</p>							
主な 予算事業等	① 名称(事業番号)		② 前年度決算(見込)額		③ 担当			
	④ 目的と概要							
	⑤ 事業等実施状況							
	1	① 高い収納率の維持		② 予算なし 千円		③ 水道局業務課		
		④ 水道料金等徴収業務を委託した民間事業者のノウハウを活用した未収金対策により、高い収納率の維持及び更なる向上を目指す。						
		⑤ 令和2年度の収納率 水道料金 99.12% 下水道使用料 99.46%						
	2	① 経費節減への取組		② 予算なし 千円		③ 水道局総務課		
		④ 収益が年々減少する一方、施設の老朽化に伴う維持補修費の増大が見込まれることから、局内各課の連携や文書管理の徹底で業務の効率化を図るほか、企業債発行条件の検討など、経費節減に取り組む。						
		⑤ 施設整備部門と維持部門の連携による適切な更新時期への見直しや、発注図書や図面をPDF化し、データを関係課で共有することにより効率化した。						
	3	① 広報活動の充実		② 985 千円		③ 水道局総務課		
		④ より多くの市民が上下水道に興味を持ってもらえるよう、広報誌やホームページの内容充実を目指すとともに、イベントや施設見学などの情報発信を行い、水道水のイメージアップを図る。						
		⑤ 広報誌年3回発行のうち1回をページ拡大し内容を充実したほか、パネル展を実施したが、「水道局サマーフェスティバル」はコロナ禍により中止した。ポトルドウォーター「小樽の水」は令和2年度末で終了。						
	4	① 歴史的価値のある資産の有効活用		② 1,092 千円		③ 水道局主幹(企画調整)		
		④ 奥沢水源地など、歴史的価値のある施設を保存するとともに有効活用に向け検討する。						
		⑤ 奥沢水源地については、次期緑の基本計画における位置づけを検討する。また、歴史的価値のある潮見台浄水場管理棟などの修繕を行ったほか、奥沢水源地水管橋の一般開放を行った。						
5	① 再生可能エネルギーの利活用の推進		② 予算なし 千円		③ 水道局水道事業課			
	④ 水道管路の水流エネルギーを活用した小水力発電や、下水熱利用による施設場内融雪など、新たなエネルギーの利活用について、可能性や採算性など調査・研究を進める。							
	⑤ 小水力発電導入に向けた検討や、下水熱利用事例についての情報収集・課題整理を進めた。							
6	①		② 千円		③			
	④							
	⑤							
指標推移の要因等	新型コロナウイルス感染症の影響に係る支払猶予を実施し、柔軟な滞納処分を行っていることを鑑みると収納率は大きく下がってはいない。							
指標推移への対応	1	1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う						
対応の内容	<対応の内容を箇条書きで記入> 1~新型コロナウイルス禍に伴う影響が懸念されるが、引き続き目標値以上の収納率維持を目指す。 2~今後も、事務効率化・経費節減につながる文書管理方法の見直し検討を続け、企業債の将来の利息負担軽減に努める。 3~コロナ禍の状況を見極めてサマーフェスティバルの開催を判断する。また「小樽の水」に代わる新たなPR展開を検討する。 4~奥沢水源地については、「緑の基本計画」の改訂に向け関係機関と協議を継続する。 5~小水力発電を行う施設の選定や事業スキームの整理、下水熱利活用についての課題整理、検討に努める。							

令和3年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(4)危機管理対策の充実と広域連携の推進

(第7次総合計画 基本計画 P.118)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値	
	災害対策訓練実施回数		平成30年		4回	5回	
	年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
			7回	8回			
指標推移	◎	◎ :指標の推移は順調 △ :指標の推移は順調でない - :判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≧標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)				
主な取組	<p>★応急資機材の確保やマニュアルの充実などによる危機管理体制の強化(水道局総務課) ○近隣自治体との連携による組織力の強化や災害時における広域連携の推進(水道局総務課)</p>						
主な 予算事業等	① 名称(事業番号)		② 前年度決算(見込)額		③ 担当		
	④ 目的と概要						
	⑤ 事業等実施状況						
	1	① 危機管理体制の強化		② 予算なし 千円		③ 水道局主幹(企画調整)	
		④ 近年、大規模自然災害が多発するなど、危機管理の重要性が年々高まっているため、災害その他非常の場合に対応したマニュアルや応急資機材及び物資の確保の充実を図る。					
		⑤ 本市業務継続計画の策定を進めるとともに上下水道BCPの策定に着手した。 また、災害を意識した訓練を8回実施した。					
	2	① 広域連携の推進		② 予算なし 千円		③ 水道局主幹(企画調整)	
		④ 将来にわたって上下水道事業が安定して持続できるよう近隣自治体などと連携し、組織力を強化することや災害時の協力体制をより強固なものに推進する。					
		⑤ 関係自治体と広域化に向けた意見交換や訓練(3回)を行うなど連携強化に努めた。 また、美唄市の断水・赤水災害に対し給水支援を行った。					
	3	①		② 千円		③	
		④					
		⑤					
	4	①		② 千円		③	
		④					
		⑤					
	5	①		② 千円		③	
		④					
		⑤					
6	①		② 千円		③		
	④						
	⑤						
指標推移の要因等	コロナ禍のため、市民参加型の訓練に参加できなかったが、小樽市総合防災訓練などに参加し、成果指標は満たしている。						
指標推移への対応	1	1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う					
対応の内容	<対応の内容を簡潔書きで記入> 1~応急資機材の確保や局内研修の充実とともに、コロナ禍終息後は合同研修・合同訓練などに積極的に参加し、危機管理体制を強化する。 2~災害時対応に係る研修会や、訓練・会議に積極的に参加したほか、連携に関する意見交換を行うなど、組織強化と広域連携の推進に努める。						